

第4章 業務概要

1 事業推進課

1.1 庶務

- (1) 所の庶務・維持管理
- (2) 有識者会議（アドバイザリーボード）の運営（2015年2月27日）
- (3) 研究所職員向け研修・研究発表の統括
 - ・安全衛生教育研修（2014年4月24日）
 - ・公用車（電気自動車）研修（2014年4月24日）
 - ・中堅職員研修（2014年10月15日）
 - ・所内研修会－平成26年度業務報告会－（2015年3月16日）
 - ・環境セミナー（2015年3月20日）
- (4) 研究所年報刊行、ホームページ管理

1.2 環境教育・学習業務

- (1) 環境学習教室等のイベントの開催

ア オープンラボ2014

環境月間（6月）の事業として、環境問題に関する体験学習と施設公開を実施。

イ NPO法人等多様な主体と連携した環境教育の実施

市民団体や企業などの多様な主体と連携して環境教育を行うことを目的に、2013年度より委託事業を実施している。2014年度はNPO法人鶴見川流域ネットワーク（以下、TRネット）が受託し、次の講座を実施した。

- ・研究所の研究成果を活用した環境科学教室
 - (ア) 大人を対象とした環境科学セミナー（全3回）
 - (イ) 子供と保護者を対象としたこども環境科学教室（1回）
 - (ウ) 夏休み環境科学教室（全4回）
- ・研究所の立地条件を活かした多摩川河口干潟の生きもの観察会
 - (ア) 子供と保護者を対象とした干潟の生きもの観察会（全4回）
 - (イ) 大人を対象とした干潟の生きもの観察会（全2回）
 - (ウ) 多摩川河口の野鳥観察会（1回）



こども環境科学教室



夏休み環境科学教室



環境科学セミナー



干潟の生きもの観察会



野鳥観察会

ウ 環境セミナー

市民及び職員を対象に水、大気、都市環境の分野を学ぶ講座の実施。2014年度は水環境をテーマに実施した。



環境セミナー

エ 関係機関との協働事業の実施

夏休み多摩川教室、キングスカイフロント夏の科学イベントへの出展



夏休み多摩川教室



夏の科学イベント

オ その他

新規イベントの企画・開催 (2015年1月16日 星空ウォッチング in キングスカイフロント実施)



星空ウォッチング

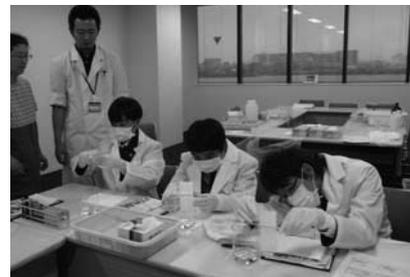


(2) 出前教室

小中学校等からの依頼による環境科学教室、体験学習の実施



こどもエコチャレンジクラブ



宮内中学校総合学習授業



殿町小学校総合学習授業

2014年度環境教育・学習事業概要一覧

No.	事業名	実施日	実施概要	対象及び 当日参加人数
1	第1回干潟の生きもの観察会	2014年 5月28日	「干潟の浄化力から川と海の水質向上を知ろう!～干潟の生きもの調査と自然浄化実験～」をテーマに、多摩川河口干潟に生息している生物の観察、二枚貝の浄化作用実験及び講義を実施した。(定員:20名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、TRネット代表理事)	18歳以上 12名
2	第2回干潟の生きもの観察会	6月14日	「干潟の力発見隊～干潟の生きもの調査と自然浄化を調べてみよう～」をテーマに、多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生物調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:40名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、TRネット代表理事)	小学生以上 及びその保護者 39名
3	オープンラボ2014	6月25日	「未来のエネルギーを考えよう!」をテーマに、燃料電池に関する体験学習及び環境総合研究所の業務内容を広く理解してもらうための施設見学を実施した。(定員:40名) 協力:東京ガス株式会社川崎支店	小学4～6年生 37名
4	第3回干潟の生きもの観察会	7月12日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生物を採取し、生物の特徴をよりよく観察するためスケッチを実施した。(定員:40名) 講師:江良弘光氏(サイエンティフィックイラストレーター)	小学生以上 及びその保護者 33名
5	夏休み多摩川教室	7月23日 24日	多摩川の水質や自然環境等へ持続的に興味を持ってもらうことを目的に多摩川流域協議会が開催する夏休み多摩川教室において、関係部署とともに「川の中の生きものコーナー」を実施した。川の中の魚や底生生物などを採取し、顕微鏡で観察を行った。	一般 306名 (全体 847名)
6	第1回夏休み環境科学教室	7月28日	「どうして水がきれいになるのかな?」をテーマに、微生物が有機物を分解し、汚水を浄化している仕組みを学ぶため、顕微鏡を使い下水処理場の微生物(活性汚泥)や川や干潟の微生物を観察した。また、研究所職員から「川崎市の河川・海の水質の変遷」について講義を行った。(定員:30名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、TRネット代表理事) 環境総合研究所地域環境・公害監視課 村上薫職員	小学4年～中学生 11名
7	第2回夏休み環境科学教室	8月1日	「川にすむ生きものを調べよう! (川崎市内上流編)」をテーマに、豊かな生物を育むふるさとの川に親しみをもち、環境保全への意識を高めるため、多摩川(登戸付近)で魚とり体験を実施した。(定員:40名) 講師:NPO法人とどろき水辺の楽校	小学4年～中学生 35名
8	川崎市青少年の家 「こどもエコチャレンジクラブ」 (出前教室)	8月4日	青少年の家が開催する「こどもエコチャレンジクラブ」の活動の一環として出前教室を実施し、酸性雨について学び、大気について理解や関心をもつことを目的とし、紫キャプション液を使い様々な液体の酸性・アルカリ性を調べる実験及び酸性雨を作る実験を行った。	小学4年～中学生 22名
9	水環境体験ツアー	8月6日	環境対策課、上下水道局及び港湾局の共催業務として、水環境について親しみ、学んでもらうために開催された「水環境体験ツアー」において、講義と生物観察会を実施した。	大人 42名
10	第3回夏休み環境科学教室	8月8日	「見えない空気を見てみよう!」をテーマに、本市の公害の歴史・取組及び大気汚染について学習し、実際の空気汚染物質の測定実験を実施した。また、研究所職員から「川崎市の大気環境の変遷と取組」について講義を行った。(定員:30名) 講師:環境総合研究所地域環境・公害監視課 関昌之職員	小学4年～中学生 27名
11	第4回干潟の生きもの観察会	8月11日	「干潟の力発見隊(Part2)～干潟の生きもの調査と自然浄化を調べてみよう～」をテーマに、多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:40名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、NPO法人TRネット代表理事)	小学生以上及び その保護者 35名
12	キングスカイフロント 夏の科学イベント	8月11日	総合企画局主催で、ライフサイエンス分野の企業・研究機関の集積を進めている「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」にて、立地研究機関等によるイベント「キングスカイフロント夏の科学イベント」を実施した。環境総合研究所は「研究所探検」及び「干潟の生きものに触れてみよう!」等の出展を行った。	一般 全体 600名
13	第4回夏休み環境科学教室	8月15日	「私達の暮らしと東京湾の水質について考えよう!」をテーマに、港湾局巡視船「あおぞら」による川崎港乗船体験を実施するとともに、赤潮などの水質について学習するため、生息する微生物等を顕微鏡で観察した。(定員:40名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、NPO法人TRネット代表理事)	小学4年～中学生 及びその保護者 33名
14	第1回環境科学セミナー	9月4日	ヒートアイランドをテーマに、専門家による講義及び研究所職員による「川崎市の気温の推移・現状」及び「サーモグラフィーの調査結果」の講義とともに芝生、アスファルト、コンクリート面等の表面温度の測定調査を行い、改善に向けた取組について話し合い、学習した。(定員:30名) 講師:戸川裕樹氏(気象庁東京管区気象台温暖化情報官) 環境総合研究所都市環境課 中島美徳職員 環境総合研究所都市環境課 高垣勇介職員	18歳以上 11名
15	第5回干潟の生きもの観察会	9月7日	「多摩川河口の生きものぜんみつけ! <干潟編>～河口干潟にいるカニや貝などたくさんの生きものを見つけよう!～」というテーマで、バイオブリッツを体験する。※雨天のため、生きもの観察とスケッチに変更した。(定員:40名) 講師:江良弘光氏(サイエンティフィックイラストレーター)	小学生以上及び その保護者 11名
16	第6回干潟の生きもの観察会	9月10日	「干潟の浄化力から川と海の水質向上を知ろう!～干潟の生きもの調査と自然浄化実験～」をテーマに、多摩川河口干潟に生息している生物の観察、二枚貝の浄化作用実験及び講義を実施した。(定員:20名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、NPO法人TRネット代表理事)	18歳以上 13名
17	こども環境科学教室	9月15日	「多摩川河口の生きものぜんみつけ! <陸上編>～草地の広場にいる虫や花などたくさんの生きものを見つけよう!～」というテーマで、バイオブリッツを体験した。(定員:40名) 講師:岸由二氏(慶應義塾大学名誉教授、NPO法人TRネット代表理事)	小学生～中学生 及びその保護者 42名
18	第2回環境科学セミナー	9月26日	「大気環境について」をテーマに、公害の歴史と行政の取組の講義及び企業の大気汚染改善の取組事例を紹介し、燃焼に関する大気成分計測として、SOx・NOx検出実験を実施した。(定員:30名) 講師:味の素株式会社川崎事業所 井上俊明氏(NPO法人環境研究会かわさき代表)	18歳以上 7名

19	宮内中学校総合学習授業	10月2日	市立宮内中学校からの依頼により、「環境総合研究所ってどんなことをしているの？」をテーマに、研究所の業務を広く知ってもらうため、見学、ペーパークロマトグラフィーのミニ実験及び河川や海などの水質に関する講義・実験を行った。	宮内中学校1～3年生及び教員 28名
20	第3回環境科学セミナー	10月23日	「水環境について」をテーマに、水環境と下水処理に関する講義を実施し、また工場排水の規制や市の水質調査に関する取組の紹介とCODなど様々な河川や海の水質調査を実施した。また、研究所職員から「川崎市の河川と海の水質の変遷」について講義を行った。(定員:30名) 講師:栗原秀人氏(21世紀水倶楽部理事) 環境総合研究所環境リスク調査課 千室麻由子職員	18歳以上 9名
21	殿町小学校総合学習授業	11月20日	市立殿町小学校からの依頼により、「地球温暖化ってなんだろう？」をテーマに、地球温暖化について講義を行い、班にわかれ、地球温暖化に関する映像の視聴、二酸化炭素の温室効果実験及び研究所の見学を実施した。	殿町小学校5年生及び教員 約110名
22	多摩川河口の野鳥観察会	11月30日	多摩川河口に生息する野鳥及び双眼鏡の使用方法など野鳥観察の予備知識についての講義及び観察を実施した。(定員:30名) 講師:渡利博氏(日本鳥類保護連盟会員) 西池淳一氏(自然観察指導員)	小学生以上 23名
23	星空ウォッチング inキングスカイフロント	2015年 1月16日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催した。星に関する解説及び天体望遠鏡で星空観察を行った。(定員:60名) 講師:かわさき宙と緑の科学館担当課長 國司眞氏	小学生以上 60名
24	2014環境セミナー	3月20日	「かわさきの公害の歴史と新たな環境問題」をテーマに本市の公害の歴史、その公害を克服してきた環境政策に関する講義(第1部「かわさきの環境 今・昔ーかわさきの水環境がつなぐ人々の暮らし(明治～平成)ー」)及び研究所職員から新たな環境問題に関する講義(第2部講義「水環境における環境リスク評価への取組み」)を実施した。(定員:60名) 講師:吉川サナエ氏(NPO法人環境研究会かわさき事務局長) 環境総合研究所環境リスク調査課 小林弘明職員	市民及び職員 45名

(3) 教材の活用

- ア 環境学習用教材(すごろく型エコライフゲーム等)の貸出
- イ 環境学習用冊子の改訂
 - ・環境学習用教材「水辺の生きもの」下敷きの改訂
 - ・環境学習用冊子「大切な大気のはなし」(「空気のごじれ」改訂版)の発行



大切な大気のはなし

1.3 国際展開・環境技術情報業務

- (1) 国連環境計画 (UNEP) 等との連携事業
 - 「第11回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催(2015年2月4日・5日)
- (2) 環境技術情報の収集・発信
 - ア 環境技術情報ポータルサイトによる環境技術情報の収集・発信
 - イ アーカイブスペースの管理・運営
- (3) 中国・瀋陽市との連携・協力
 - 第17期瀋陽市環境技術研修生の受入(2014年11月9日～12月7日、研修生2名)
- (4) 海外からの環境技術に関する視察・研修受入
 - 2014年度環境局視察受入数:中国、インドネシア共和国、ラオス、スリランカ、イランなど22件(266人)

2 都市環境課

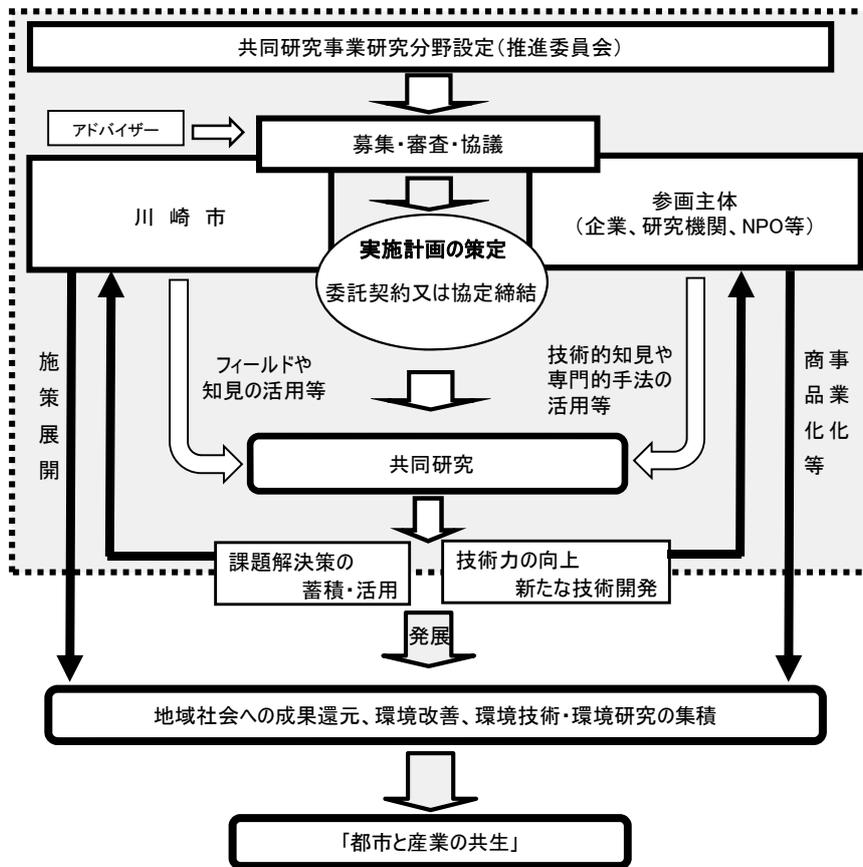
2.1 都市環境研究業務

- (1) 地球温暖化対策に関する調査研究
 - 温室効果ガス排出量に係る調査研究
- (2) ヒートアイランド現象に関する調査研究
 - ア 気温分布に関する調査
 - イ 熱中症発生状況と気温との関係に関する調査研究

2.2 産学公民連携業務

(1) 環境技術産学公民連携共同研究事業

2014年度の共同研究は、7件（公募型共同研究6件、連携型共同研究1件）を実施



環境技術産学公民連携共同研究事業の流れ

ア 公募型共同研究事業

毎年度公募を行い、選定した研究テーマについて、委託事業として実施する共同研究事業。

(ア) エアロゾル複合分析計のフィールド評価

(共同研究者：富士電機株式会社)

富士電機株式会社（東京都日野市）と本市は、富士電機・東京大学・海洋研究開発機構が共同で開発したエアロゾル複合分析計の有効性を実証するため、2013年度から、川崎市高津一般環境大気測定局にエアロゾル複合分析計を設置し、市の行っているPM2.5の既存測定器や手分析との比較検証を実施している。

2013年度は、夏季と冬季のデータを取得し、市の測定との整合性の実証など装置の有効性を検証した。



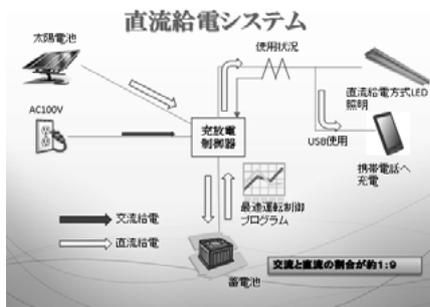
2014年度は、操作性などを改良した装置を使い3か月半にわたる長期間のフィールド実証を行い、装置の信頼性やメンテナンス方法の検証と市内のPM2.5の実態解明を行った。この共同研究により、2015年6月には富士電機としてエアロゾル分析計の製品化にもつながった。

PM2.5対策には発生源寄与評価が重要であり、その際に必要となる粒子成分の測定において常時監視できる分析装置として、測定データの時間変化や気象情報等を統合して解析することで、PM2.5の実態解明と将来的な排出監視に必要な技術開発を行い、PM2.5対策に関する貢献を目指していく。

(イ) 直流給電方式による省エネ型電源に関する研究

(共同研究者：東京整流器株式会社)

東京整流器株式会社（川崎市多摩区）と本市は、2013年度から、川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）屋上に、パワーコンディショナー（インバーター）を使用しない直流給電方式の太陽光発電と蓄電池を組み合わせた



実証用の省エネ型電源システムを設置し、発電から充電に至るデータや既存の太陽光発電システムとの比較等を行っている。

2013年度の研究では、直流給電技術の実証として装置を設置、パネルの設置角度0度での発電・充電状況や既存の太陽光発電システムとの比較等実証を行い、一般的には発電できないとされる日の出直後や日の入直前の時間帯においても1Wから発電できることを確認し、システムの優位性を確認した。2014年度の研究では、水滴付着防止対策として設置角度を5度にし、冬期における長期間実証を行った。

一般の太陽光発電システムでは、太陽光パネルで発電した電気をパワーコンディショナーで直流から交流に変換しており、その後も電化製品に供給される間に数回の電力変換を行っているため、この電力変換を最小限にすることで、変換による発電効率の低下を減らし、太陽光発電システムをより高効率で使用するというもの。

今後、直流給電技術により本市におけるスマートシティの構築や省エネ化を目指していく。

(ウ) ボトムアップ型まちづくり手法による低炭素商店街の実現手法検討

(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学)

学校法人五島育英会東京都市大学（東京都世田谷区）と本市は、スマートシティ事業の既成市街地への普及展開に向け、市内の既存商店街を対象に低炭素まちづくりに関する研究を行った。

継続的な取組となるよう、行政や専門家のサポートを受けながら事業者や地域住民がコミュニティレベルで取組を企画、実施できる体制を構築するため、具体的な取組を実施する中で、データの収集、分析や提案を行うなど、そのプロセスへの支援を通して汎用的な低炭素コミュニティの実現手法・PDCA手法を確立するもの。

2014年度は、連携する商店街を多摩区の登戸東通り商店会と区役所通り登栄会商店街振興組合と決定し、更には多摩区まちづくり協議会多摩エコスタイルプロジェクトも加わり、具体的なエコ活動についての検討を行った。

今後、商店街のエコ活動を中心に周辺住民の低炭素型ライフスタイルを促進させる、地域主導型の低炭素まちづくりの実現手法を確立し、普及することで環境共生、地域活性化を目指していく。

(エ) 200℃未満の未利用熱を利用した発電システムの導入可能性調査研究

(共同研究者：アドバンス理工株式会社)

アドバンス理工株式会社（横浜市都筑区）と本市は、工場等でエネルギーとしては未利用域である、低温度領域（概ね200℃未満）の熱利用の促進に向け、2014年度は事業者の実態調査や排熱利用に関する研究を行った。

排熱については、多様な状態（水・気体・有機系液体等）で存在し、高温度域かつ一定規模のものであれば発電などに利用されているが、低温度域では技術的、費用対効果の面からも導入が難しく、廃棄されている場合が多いため、その有効利用について技術開発等を行うもの。

2014年度は、市内中小企業における排熱の種類や排熱利用に関するニーズ調査や、浮島処理センターをフィールドとしたバイナリー発電機の実証を行い、温度差50℃の排水における約1kWhの発電データを得た。

今後、中小企業における排熱利用を促進させることで、低炭素化、温暖化防止への貢献を目指していく。



(オ) 気候変動適応策等へのフェーズドアレイ気象レーダ活用に向けた研究

(共同研究者：株式会社東芝)

株式会社東芝（川崎市幸区）と本市は、東芝・大阪大学・情報通信研究機構が共同で開発したフェーズドアレイ気象レーダの行政分野における有効利用について検討を行った。

都市型水害として、年々ゲリラ豪雨などの局地的な大雨の発生回数が増す中、気候変動に対応する適応策のひとつとして、短時間の雨雲検知を活かした避難誘導や下水道運用など、行政ニーズやその課題について把握するもの。

2014年度は、本市の危機管理室にヒアリングを行い、行政運用に関する課題把握を行った。

本市のスマートコミュニティ推進にあたり、レーダの有効利用や情報発信への貢献を目指していく。

(カ) 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究

～川崎タイム・マシン～「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

(共同研究者：学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM))

学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（東京都港区）と本市は、「環境」を主な切り口とし、本市の過去と現在の比較を素材としながらコミュニケーション活性化の促進に効果的な方法について研究を行った。

過去から現在に至る環境データの推移や本市の映像、写真を素材とし、それらが地域の多世代、多職種の人々をつなぐコミュニケーション媒体として機能するかどうかを検証する社会科学的な取組として実施するもの。

2014年度は、市の保存している古い映像や写真を集め分類し、3つのテーマ（「公害」・「川崎市平地・山間部」・「川崎市臨海部」）で映像データを編集。また、ワークショップ開催や川崎国際環境技術展により市民から直接声を集めた。

市民が身近な環境課題に対処していくための手法を研究し、地域力向上への貢献を目指していく。



イ 連携型共同研究事業

多様な連携のスタイルに対応するため、2014年度に「環境技術産学公民連携共同研究事業に係る申請及び実施に関する要領」を改正し、新たに位置づけたフィールド提供を中心とした共同研究事業。

既設太陽光パネルの洗浄方法と発電効率に関する実証

(共同研究者：フジクス株式会社)

フジクス株式会社（川崎市川崎区）と本市は、普及しつつある太陽光発電システムの経年劣化や発電効率の低下に対し、その性能回復について、洗浄の効果及び洗浄方法に関する研究を行っている。

2014年度は、2015年1月にフジクスと本市で覚書を締結し、市立西丸子小学校をフィールドとした試験洗浄を実施し、その効果検証を行っている。



(2) 共同研究事業に係るセミナーの開催（2回）

ア キックオフセミナー（2014年7月30日）

2014年度に選定した公募型共同研究事業6件に係るキックオフセミナーを開催。出席者44名

イ 成果報告会（2015年3月18日）

2014年度に実施した公募型共同研究事業の成果を報告するためのセミナーを開催。出席者48名

(3) 川崎国際環境技術展への出展

2015年2月5・6日に開催された川崎国際環境技術展へ出展し、産学公民連携事業について、これまでに実施した共同研究の事例紹介及び2014年度に実施した共同研究事業について情報発信を行った。

2.3 プロジェクト研究業務

- (1) 国際貢献の推進に向けた研究
 - ア マレーシア国ペナン州「Waste to Energy 技術」による低炭素都市形成支援事業
 - イ インドネシア共和国バンドン市・川崎市との都市間連携による低炭素都市形成支援事業
- (2) 低炭素都市に係る総合的な研究
 - ア 持続可能な街づくりにむけた行動アプローチに関する研究
 - イ 低炭素都市形成の実現に向けた環境指標開発に関する研究
 - ウ アジア地域の低炭素化実現に関する研究
- (3) 環境施策に係る総合的な研究
 - ア アジア地域の越境大気汚染問題の解決にむけた科学と施策との統合的アプローチによる国際共同研究
 - イ 化学物質の複合影響に関する研究

3 環境リスク調査課

3.1 環境リスク評価研究業務

- (1) 環境リスク評価に関する調査研究
 - ア 化学物質の健康影響に係る環境リスク評価に関する調査研究
 - イ 大気拡散モデルを用いた暴露量評価に関する調査研究
 - ウ 化学物質の生態リスク評価に関する調査研究
- (2) 有害大気汚染物質に関する調査研究
 - ア 有害大気汚染物質のモニタリング調査（揮発性有機化合物（以下、VOC）及び多環芳香族炭化水素類）
 - イ 有害大気汚染物質の臨海部平面分布調査（VOC 及び多環芳香族炭化水素類）
- (3) オゾン層破壊物質及び地球温暖化物質に関する調査研究
- (4) 工場・事業場における VOC 排出実態調査

3.2 環境化学物質研究業務

- (1) 大気環境及び水環境中の化学物質に関する調査研究
 - ア 川崎市化学物質環境実態調査
 - イ 地下水中の有機フッ素化合物調査
- (2) 化学物質の高精度分析に関する調査研究
 - 難分解性化学物質の高精度分析手法検討
- (3) 環境省受託化学物質環境実態調査（分析法開発及び環境調査）
- (4) 地下水汚染及び土壌汚染に関する調査
 - ア 汚染井戸に関する水質の継続調査（VOC）
 - イ 川崎市地下水質調査（要監視項目の追加調査）
 - ウ 土壌汚染に係る地下水質調査（VOC）
- (5) 工場・事業場の排水に含まれる VOC 調査
- (6) 水質事故・苦情に伴う調査（農薬、油類等）

3.3 生物学的調査研究業務

- (1) 生物学的試験による複合リスク評価の取組
- (2) 生物応答を利用した環境リスク評価手法の検討
- (3) 水質汚濁及び生物多様性に関する公共用水域調査
 - ア 河川の水質及び水生生物調査
 - イ 親水施設の水質及び水生生物調査
 - ウ 多摩川河口干潟の生物及び底質調査
 - エ 東扇島東公園人工海浜の生物調査

3.4 他機関との共同調査・研究

- (1) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）

- 「国内における化学物質審査規制法関連物質の排出源及び動態の解明」
- 「沿岸海域環境の物質循環現状把握と変遷解析に関する研究」
- 「藻場・干潟等浅海域と陸水域における生態系機能評価と生息環境修復に関する研究」
- (2) 情報・システム研究機構 統計数理研究所との共同研究
 - 「東京湾水質データの統計解析」
- (3) 神奈川県・横浜市との共同研究
 - 「POPs 等難揮発性化学物質の大気環境中における動態」

4 地域環境・公害監視課

4.1 大気調査研究業務

- (1) PM2.5 の成分分析に関する調査研究
 - ア 一般環境及び道路沿道における微小粒子状物質 (PM2.5) の濃度実態調査
 - イ 微小粒子状物質 (PM2.5) の成分調査及び発生源寄与率調査
- (2) アスベストに関する環境調査
 - ア アスベストの一般環境調査
 - イ 建屋解体等に伴うアスベスト調査
- (3) 酸性雨に関する調査
- (4) 降下ばいじんに関する調査

4.2 水質汚濁防止対策業務

- (1) 工場事業所排出水の水質及び工程調査
 - ア 工場・事業場排出水の水質調査
 - 工場・事業場の排出水に含まれる規制項目 (VOC を除く) の水質検査
 - イ 工場・事業場における排水処理施設の維持管理に関する調査
- (2) 土壌汚染による周辺環境に関する調査研究
 - ア 土壌汚染に係る地下水質 (VOC を除く) 調査
- (3) 汚染井戸継続調査
 - ア 地下水汚染継続調査
 - 汚染井戸に関する水質 (VOC を除く) の継続調査 (特定有害物質等製造等事業所の地下水質調査、汚染井戸継続調査)
 - イ その他の地下水質 (VOC を除く) 調査

4.3 苦情・事故等に伴う調査業務

- (1) 大気・水質に係る苦情・事故等に伴う原因物質究明調査

4.4 環境大気常時監視業務

- (1) 一般大気環境常時監視測定
 - 一般環境大気測定局 9 局での環境大気常時監視の実施
- (2) 道路沿道大気環境常時監視測定
 - 自動車排出ガス測定局 9 局での環境大気常時監視の実施
- (3) 常時監視機器、測定局の維持管理
 - ア 測定局舎及び測定機器の維持・整備
 - イ 測定結果等の情報提供内容の充実
- (4) 原子炉施設周辺及び市内の環境放射能調査
 - ア 原子炉施設周辺の施設排水及び上水の放射能濃度調査
 - イ 原子炉施設周辺の堆積物及び土壌の放射能濃度調査
 - ウ 原子炉施設周辺の大気浮遊じん、定時降水及び月間降下物の放射能濃度調査
 - エ 原子炉施設周辺の空間ガンマ線量率調査
 - オ 原子炉施設周辺の放射線積算調査

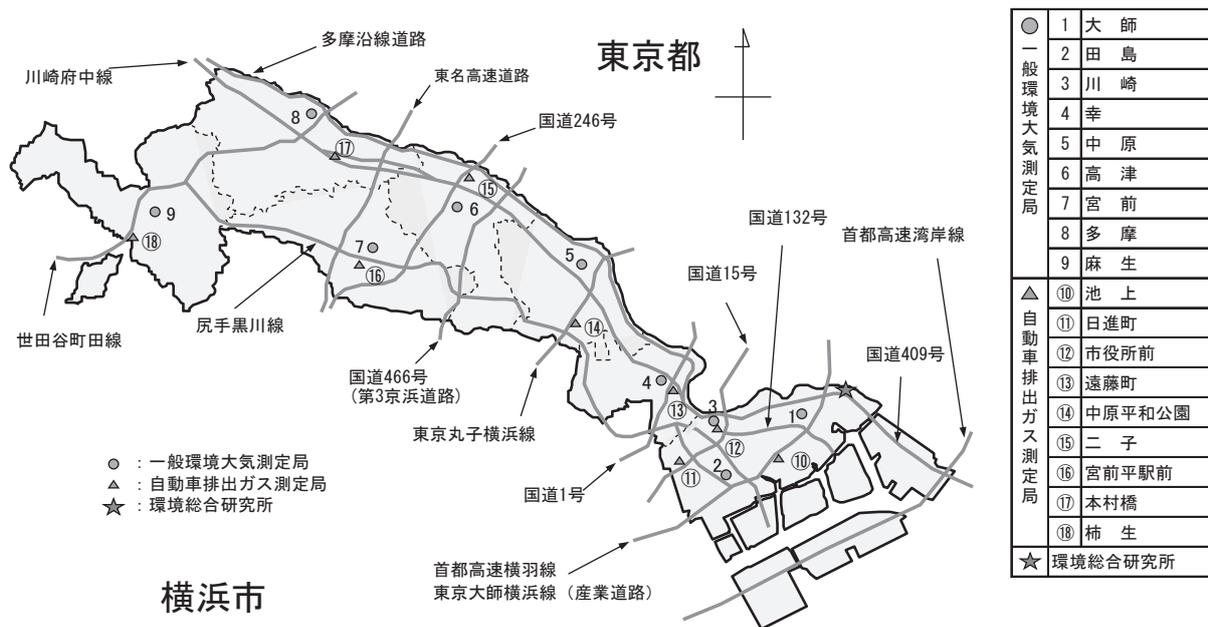
カ 市内における空間放射線量調査

キ 市内における土壌の放射性物質調査

4.5 他機関との共同調査・研究

- (1) 関東地方大気環境対策推進連絡会 浮遊粒子状物質調査会議合同調査
関東地域における微小粒子状物質等の実態把握
- (2) 神奈川県公害防止推進協議会 浮遊粒子状物質対策検討部会調査
県内における微小粒子状物質等の濃度及び成分組成調査
- (3) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）
「PM_{2.5}の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」

大気常時測定監視網



一般環境大気測定局 平成27年3月末現在

地区	測定局名（設置場所）
大 師	大師（川崎区役所大師分室）
田 島	田島（田島子ども文化センター）
川 崎	川崎（市役所第4庁舎）
幸	幸（幸スポーツセンター）
中 原	中原（中原保健福祉センター）
高 津	高津（生活文化会館）
宮 前	宮前（宮前平小学校）
多 摩	多摩（登戸小学校）
麻 生	麻生（弘法松公園）

自動車排出ガス測定局 平成27年3月末現在

地区	測定局名（設置場所）
田 島	池上（池上新田公園前）
川 崎	日進町（都市機構川崎日進市街地住宅敷地内）
川 崎	市役所前（市役所前）
幸	遠藤町（御幸小学校）
中 原	中原平和公園（中原平和公園）
高 津	二子（高津区役所道路公園センター）
宮 前	宮前平駅前（上下水道局管理地）
多 摩	本村橋（本村橋）
麻 生	柿生（麻生消防署柿生出張所）